

人気のプログラムが 装いも新たに登場! 小山実稚恵ピアノ・トリオ 夢の響演



© Hideki Otsuka

ヴァイオリンの堀米ゆず子さん、そしてチェロの堤剛さんと、彩の国さいたま芸術劇場でまたトリオができるることは、私にとっての何よりの喜びです。ブラームスの室内楽シリーズでの共演はリハーサルもコンサートも全てがとても刺激的でした。毎回のリハーサルの前に、家では1人でピアノパートを練習するわけですが、その時に「堀米さん、堤さんはここをどのように弾かれるのだろう」と2人のヴァイオリンとチェロの響きを想像し、頭の中で鳴らしながら作品と向き合うのは至福の時でした。そしてリハーサル。生の響きにお互いが反応し合いながら本番までに1つの音楽を作り上げていく道中は、まさに音楽の醍醐味です。

今回はベートーヴェンの「大公トリオ」とチャイコフスキイのトリオ「偉大なる芸術家の想い出に」、最高のプログラムでのコンサートです。まったくカラーの違う2つの作品がどうなっていくのか、本番が今から楽しみです。

小山実稚恵 ピアノ Michie Koyama, piano

1982年チャイコフスキイ・コンクール第3位、85年ショパン・コンクール第4位と日本人として初めて二大国際コンクールに入賞、国内外で目覚しい活躍を続けている。2006年6月からはBunkamuraオーチャードホールにて春・秋年2回ずつ2017年まで「12年間・24回リサイタルシリーズ『小山実稚恵の世界』~ピアノで繰るロマンの旅」に取り組み大きな注目を集めている。2005年度文化庁芸術祭音楽部門の大賞、2005年第7回ホテルオーケラ音楽賞を受賞。

•••

小山実稚恵さん、堤剛さんとは、彩の国でブラームスのピアノを含めた室内楽で、足掛け5年ご一緒にしました。最初はなんと長大な企画であろうか、完結できるであろうかという不安もありました。しかし、最初の年、ピアノ五重奏の音が出ると、熱気を帯びた皆さんの音楽作りに私も啓発されて、すぐ夢中になり、気がついたらあっという間に5年が過ぎた……というのが正直なところです。それだけ「気心が知れてきた」のかも知れません。

今回はブラームスではなく、ベートーヴェンとチャイコフスキイのこれもまた2大名曲を演奏します。小山さんのいつも均整の取れたピアノの響き、堤さんのますます油の乗ってこられた情熱のチェロとの共演、今からワクワクしています。乞うご期待!!

堀米ゆず子 ヴァイオリン Yuzuko Horigome, violin

1980年、ベルギー・ブリュッセルにおけるエリーザベト王妃国際音楽コンクールで、日本人として初めて優勝。ヨーロッパを中心に世界各地でオーケストラとの共演、リサイタルのほか、室内楽にも積極的に取り組み、アメリカのマールボロ音楽祭にしばしば参加、最近ではマルタ・アルゲリッチとも共演している。現在、ブリュッセル王立音楽院客員教授。使用楽器はヨゼフ・ヴァルネリ・デル・ジェス(1741年製)。

•••

ベートーヴェンの「大公」、そしてチャイコフスキイのトリオというまことにスケールの大きな、しかも密度の濃いプログラムを小山実稚恵さん、堀米ゆず子さんという名手お二人と演奏することが出来ますのは私にとって本当に幸せなことです。お二人はピアノ・トリオという室内樂的な調和を求めながらも同時に、各々がソリスト的個性をきらめかせ、しかもお互いが競い合うときもあり、ジャンルに最もふさわしい演奏家だと思います。

そこでの私の役割はそのお二人をある時にはサポートし、またある時にはチェロの魅力を發揮させながら競いの中に加わることです。お客様にこの奥深く、エキサイティングなプログラムを十分に堪能して頂けましたら、私たちにとって大きな喜びです。

堤 剛 チェロ Tsuyoshi Tsutsumi, violoncello

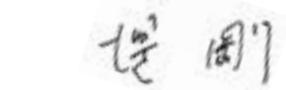
1963年ミンヘン国際コンクール第2位、カザルス国際コンクールで第1位入賞を果たし、以後内外での本格的な活動を開始。現在に至るまで、世界各地でオーケストラとの共演、リサイタルを行っている。これまでに受賞した主な賞としては、「1992年日本芸術院賞」をはじめ、「第2回サンタリー音楽賞」、「ウジエヌ・イ・ザイ・メダル」、「1988年中島健蔵音楽賞」などがある。2001年から霧島国際音楽祭の音楽監督を務めている。2004年4月より桐朋学園大学学長の任にある。

小山実稚恵 ピアノ・トリオ 夢の響演

【日時】12月3日(日) 開演15:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

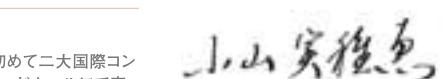
【曲名】ベートーヴェン:ピアノ三重奏曲第7番 変口長調 Op.97「大公」
チャイコフスキイ:ピアノ三重奏曲 イ短調 Op.50「偉大なる芸術家の想い出に」
【出演】小山実稚恵(ピアノ) / 堀米ゆず子(ヴァイオリン) / 堤剛(チェロ)
【チケット(税込み)】一般 S席 4,000円 A席 3,000円 学生 A席 1,000円
メンバーズ S席 3,600円 A席 2,700円
【発売日】メンバーズ 9月18日(月・祝) 一般 9月23日(土・祝) ※発売日が変更になりました。訂正お詫び申し上げます。



彩の国さいたま芸術劇場で過去10回も公演してきた、人気のプログラム「小山実稚恵と仲間たち」が、今度はピアノ・トリオとして帰って来る。

ピアノは小山実稚恵さん、ヴァイオリンに堀米ゆず子さん、チェロには堤剛さん。気心の知れた3人が、今から楽しみにしているというこの演奏会。

3人からのメッセージを届けよう。



モーツアルト・イヤーを締めくくる究極の公演! バッハ・コレギウム・ジャパン モーツアルト《レクイエム》

モーツアルトの生誕250周年となった今年を締めくくるにふさわしいコンサートが開かれる。

それはバッハを専門とする人気合唱団&オーケストラ、バッハ・コレギウム・ジャパンがモーツアルトに取り組むという公演。

その魅力と聴きどころとは?

文:加藤浩子(音楽評論家)

2006年、クラシック界は「モーツアルト・ブーム」に沸いている。故国のオーストリアはもちろんだが、日本での沸騰ぶりも格別で、1月に生地のザルツブルクで行われた生誕250周年記念コンサートも夏のザルツブルク音楽祭も、大勢の日本人でぎわった。

その喧騒も一段落。秋以降は、モーツアルトが没した12月を中心に、各地で行われる《レクイエム》の演奏が注目を集めそうだ。

なかでも音楽ファンならぜひ足を運びたいのが、日本の誇るオリジナル楽器の合唱団&オーケストラ、「バッハ・コレギウム・ジャパン」(以下BCJ)の《レクイエム》。指揮者の鈴木雅明が率いるBCJは、その名の通り古楽、とくにバッハを専門とする団体だが、やはり彼らにあって今年は特別、満を持してモーツアルトに乗り出した。バロックからスタートして、たちまち古典派へとレパートリーを広げてしまう古楽団体の多いなかで、じっくり腰をすえてバッハに取り組んでいるBCJは貴重な存在だが、そのBCJがモーツアルトに進出するからには、万全の演奏を期待していいだろう。彼らの実力は世界でも高く評価されており、これまでにニューヨークのカーネギーホールや、アムステルダムのコンセルトヘボウをはじめとする一流ホールに客演、大喝采を受けている。

モーツアルトの《レクイエム》は、彼のおびただしい作品の



© K.Miura

Bach Collegium Japan,
chorus & orchestra
バッハ・コレギウム・ジャパン

合唱&管弦楽

世界の第一線で活躍するオリジナル楽器のスペシャリストを擁して1990年に鈴木雅明が結成したオーケストラと合唱団。特にJ.S.バッハを中心、バロック音楽を理想的に上演し、《J.S.バッハ:教会カントータ全曲録音シリーズ》(スウェーデン・BIS社)などのCDや欧米ツアーも高い評価を得ている。

Masaaki Suzuki, conductor

鈴木雅明 すずきまさあき
指揮

東京藝術大学作曲科卒業。同大学院オルガン科修了後、スウェーリング音楽院へ留学。1990年、オリジナル楽器アンサンブルと合唱団「バッハ・コレギウム・ジャパン」を結成。数々の受賞の他、01年ドイツ連邦共和国功労勲章功労十字小綬章を受章。03年辻莊一・三浦アンナ記念学术奨励金受賞。現在、東京藝術大学教授。



© shuto mikio

なかで、抜きん出てドラマティックな作品だ。けれどそれでも、18世紀の宗教音楽であることには変わりはない。BCJの精緻にして伸びやかな合唱、楽器の音色を知り尽くし、それを理想的に響かせる術を心得た演奏家で構成されるオーケストラ、人気沸騰の森麻季に、若手の実力派ドミニク・ヴェルナーやアンドレアス・ヴェラーら豪華なソリストたち、そして何より作品のたたずまいを蘇らせることに情熱を注ぐ鈴木雅明の指揮は、そのことを改めて教えてくれるのではないだろうか。絶対に聞き逃せない公演である。



Maki Mori,
soprano
森 麻季
もりまき
ソプラノ
© Yuji Hori



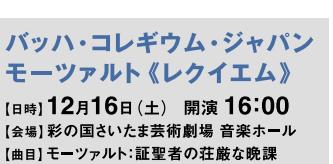
Marianne Beate
Kielland,
alto
マリアンヌ・
ベアーテ・
キーラント
アルト
© Yuji Hori



Andreas
Weller,
tenor
アンドレアス・
ヴェラー
テノール
© Yuji Hori



Dominik
Wörner,
bass
ドミニク・
ヴェルナー
バス
© Yuji Hori



バッハ・コレギウム・ジャパン
モーツアルト《レクイエム》

【日時】12月16日(土) 開演 16:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【曲目】モーツアルト: 話題者の狂歌な晩課

【曲目】「ガスペレ」ハ長調 K339

モーツアルト: レクイエム 二短調 K626

【出演】鈴木雅明(指揮) / 森 麻季(ソプラノ) / マ

リアンヌ・ベアーテ・キーラント(アルト) / アンドレ

アス・ヴェラー(テノール) / ドミニク・ヴェルナー(バ

ス) / バッハ・コレギウム・ジャパン(合唱と管弦楽)

【チケット(税込み)】※発売中

一般 S席 8,000円 A席 7,000円

学生 A席 2,000円

メンバーズ S席 7,200円 A席 6,300円

ドミニゴー認められ、ワシントン国立歌劇場でアメリカ・デビュ。以来、ワシントンとロスでミニコンサート、フォン・シューター、アーラニーヤらと共に演奏し絶賛を博す。小澤征爾、チャイコフスキイなどをはじめとする指揮者や内外のオーケストラとの共演も多いた。2007年ドレスデン国立歌劇場「薔薇の騎士」に出演予定。出光美術賞、ホテルオーケラ賞、ワシントン賞受賞。二期会会員。

シユトウガルト児童聖歌隊出身。声楽・指揮法・合唱指揮を学び、ハープルクではリートの栄誉賞付を獲得。リューベック音楽アカデミーを経て、フレガルディエン、ゲイジのもと研鑽を積む。エヴァンゲリスト、オラトリオ歌手として国際的に活躍し、ヘレヴェッハ、リリンク、ホーネック、リフキンなど著名な指揮者との共演も多い。